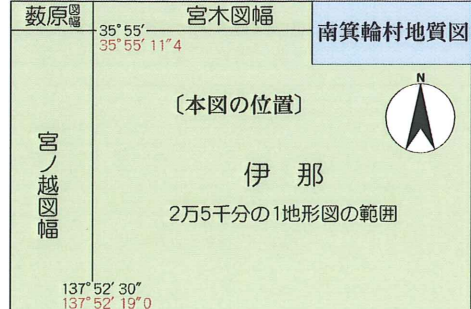


# 基盤岩類 (山地を造る 岩石類)

- R0**  
粘板岩(泥質岩)を  
主とする地層。以  
下の砂岩・礫岩の  
地層と共におよそ  
1億8千万年前の  
ころを中心とする  
ジュラ紀付加体の  
地層。全域が弱い  
広域変成作用を受  
けており、黒雲母  
がでている。
- R1**  
砂岩が目立つ地層  
で粘板岩と漸移す  
る。
- R2**  
礫岩が部分的に含  
まれる地層
- R3**  
緑色岩。海底火山  
起源の岩石で年代  
は約2億数千万年  
以上前の地層。粘  
板岩の部分より古  
い岩石で、小分布  
する。
- R4**  
石灰岩の小岩体  
で、ほぼ緑色岩と  
同時代のもの。
- R5**  
チャートまたは珪  
質の粘板岩で、一  
部には約2億2千  
万年以上前の地層  
がある。

基盤岩類は本州  
の土台となる美濃  
帯の地層で、広域  
変成作用を受けて  
いるため領家帯の  
一部ともされている。  
将葉山から駒ヶ  
岳一帯は花崗岩の  
山である。本図内  
にも花崗岩・輝緑  
岩・はんれい岩な  
どの小岩体が稀に  
分布している。



本図は松島による既存の地質調査資料  
を元に2009年の調査結果を加えて編  
集した。参考資料に、片田・磯見  
1962「伊那」図幅から山地の地質を  
引用した。権兵衛峠付近は同峠トン  
ネル地質資料および大塚勉1996「榑川  
村地質図」を参考にした。

- おもに活断層(活撓曲や傾動を示す)(赤色は伊那谷盆地内の活断層)**
- 木曾山脈を  
切っており  
破砕帯を伴  
う境峠-神  
谷断層系
- 短線側の地形  
が下がる  
→は活撓曲  
で短線は土地  
が下がる向き
- 経ヶ岳山麓部の  
活断層と天龍川  
低地帯の西縁を  
造る活断層  
(伊那谷断層帯)
- 傾動  
約13万年前より  
古い扇状地が断層の動  
きを受けて山間(西  
側)へ僅かに傾く



**おもに  
盆地内を  
埋めている  
新しい堆積  
(g<sub>2</sub>を除き  
約70万年前以降)**

- f** 天龍川や支流の  
氾濫原  
礫・砂・粘土
- t<sub>1</sub>** 大泉川など支流  
沿いの低位段丘  
礫・砂
- t<sub>2</sub>** 天龍川右岸沿  
いの段丘  
礫・砂・粘土
- d** 山麓部に多い崩壊物  
土石流や崩壊物  
など含む
- d<sub>1</sub>** 新期土石流扇状地  
(約3万年前より新しい扇状地  
テフラ(AT)が表層に含まれない  
礫・砂・粘土  
(若干の再堆積性のテフラ)
- d<sub>2</sub>** 盆地内の土石流扇状地  
(表層を覆うテフラには御岳  
第1テフラを含み、約10万  
年前より新しい扇状地)  
礫・砂・粘土・テフラ
- d<sub>3</sub>** 盆地内の低位丘陵や山地に  
残存する段丘とその堆積物  
(約13万年前より古い)  
礫・砂・粘土・御岳第1テフラ  
とその下位の古土壌
- g<sub>1</sub>** 崖の部分に見える  
砂礫層  
(約70万年前以降に降  
約1万年前の地層)
- g<sub>2</sub>** 約70万年前より  
古い砂礫層  
ゆるく西傾斜する